



## 山科ゆかりの文学シリーズ その5 「宮沢賢治の京都修学旅行と“山科のたけのこ”」

「銀河鉄道の夜」や「雨ニモマケズ」などの作品で知られる、詩人で童話作家の宮沢賢治（みやざわけんじ、1896～1933）。本格的に詩や童話を書く前の少年期から青年期にかけて、数多くの短歌を詠（よ）んでいます。今回の文学シリーズは、賢治の学生時代の京都修学旅行と、そのときに詠んだ“山科のたけのこ”の短歌を紹介します。

大正5年（1916）3月、盛岡高等農林学校農学科2年の宮沢賢治は、修学旅行で京都を訪れます。修学旅行の主な目的は、関東・関西方面の農事試験場・農学校を見学することでしたが、京都では観光も楽しみました。賢治の同級生の修学旅行日報によると、一行は3月23日から27日まで京都方面に滞在、AQZ』26日の日報には、山科について次のような記述が見られます。



「宿から京津電車で大津へ向かう。山科辺を過ぐ。大石良雄に有名たり名所旧跡多し追分過ぎて大津に着く。滋賀県立農事試験場参観。三井寺、石山寺参拝。京都へ向かう。帰りは二途に分かれた。我々は電車で大津へそれから和船で疏水を下った。疏水の三つのトンネルは明治15年頃の工事としては大事業であったと思われた。有名なるインクライン・南禅寺を見て宿に帰った」。

賢治はこの旅行で、“山科のたけのこ”を詠みましたが、大津から船で疏水を下って山科を訪れたのかもしれませんが。



「山しなの たけのこばたの  
うすれ日に そらわらひする  
商人のむれ」

「たけのこばた」とは、山科盆地に多くあった、たけのこの畑。早春のたけのこ畑は明るく、林立する竹幹の葉を通して漏れる「うすれ日」の柔らかな光の底に、「はしり相場」の一もうけに胸打ち震わせる商人の群れを、賢治は見たのです。

当時、“山科のたけのこ”は全国ブランドの高級品でした。旧追分宿の奈良街道と旧東海道の分岐点には、明治40年、山科藤尾筍（たけのこ）組合がその功績を称えて建立した頌徳（しょうとく、徳をたたえる）碑が立っています。碑の東側が筍の入札場（集荷場）でした。

東北の農民生活の向上に力をついた賢治は、栽培と商品価値に対して強い関心があったのかもしれませんが。大正時代、あの宮沢賢治が“山科のたけのこ”に興味をもち、この地を訪れていたかも知れないと思うと、とてもロマンティックな気分になります。



## 図書館からのお知らせ

- ★3月 8日（木）大人のための朗読会  
午前11時～ 京都橘大学放送研究部による朗読。（申込不要・無料）
- ★3月10日（土）おたのしみ会  
午前11時～ 勸修中学校放送同好会による紙芝居ほか（申込不要・無料）
- ★3月23日（金）大人のための整体体操  
午前11時～ 講師：もりもとまき氏  
※動きやすい服装でお越し下さい。（申込不要・無料）

## 定例行事 3月予定

- ☆3月 5日（月）赤ちゃんの会～だっこくらぶ～  
午前11時～ 子うま文庫さんによる絵本の読み聞かせ・パネルシアターなど
- ☆3月17日（土）おたのしみ会  
午前11時～ 図書館職員による紙芝居・大型絵本の読み聞かせなど
- ☆3月19日（月）赤ちゃんの会～トコトコくらぶ～  
午前11時～ 鏡山保育所保育士さんによる絵本の読み聞かせなど
- ☆3月24日（土）Head Shouldersで遊ぼう！  
午後2時30分～ヒップファミリークラブさんによる英語の歌や読み聞かせなど

## 新着図書紹介

- ・「サピエンス全史」上・下巻 ユヴァル・ノア・ハラリ/著
- ・「イギリス英語を聞く」THE BLUE BOOK
- ・「定年後」楠木新/著
- ・「友情」山中伸弥/著
- ・「天翔ける」葉室麟/著

## 今月の展示

- ◆「歌・楽器演奏にチャレンジ」…卒業シーズン。新年度へ向けて名曲がたくさん！自分で演奏できれば感動もひとしお！

## コーナー紹介

- ◇「短歌コーナー」…暖かい春のきざし。新年度が始まる区切りの時。想う心情・風景を五七五七七の歌にしてみませんか？